

河合塾 大学入試情報分析報告会から

- 先週末、河合塾大宮校で第3回大学入試情報分析報告会が実施されました。あなたたち131回生も多くの受験した第3回全統マーク模試からみる志望動向を中心に、河合塾による情報分析が報告されました。
- 高大接続改革に伴い（2年後の新テスト実施に向けて）、思考力を問う問題の増加など、出題の質の変化が目立ち始めている。センター・国公立二次・私大、いずれも近年の過去問演習に十分に取り組む必要アリ。
 - 国立難関10大（旧七帝大：東京・京都・東北・九州・北海道・大阪・名古屋 + 東工・一橋・神戸）の志望者は前年比99%で堅調。
 - 東大は、文科類志望者は前年並。理科類志望者はやや減少。逆転合格ゾーンに志望者が集中しているので、最後まであきらめない、油断しない。評価別・科目別成績「あと一歩伸ばすべきところ」を確認・補強。
 - 一橋大人気。前年比117%。東大から、近畿地区から、そして地元の現役生に人気のため、前期全学部で志望者増。難易度維持。激戦。併願先私大は早稲田・慶應が減少し、立教・明治・中央が急増。学力トップ層も安全志向が顕著。
 - 東工大人気。志望が多いのは情報理工学院（6.9倍）>工学院（3.4倍）>理学院（3.3倍）>環境・社会理工学院（3.2倍）>物質理工学院（1.8倍）>生命理工学院（1.3倍）。
 - 東北大AOⅢ期の影響で前期定員減。志望者前年比は、文90%、教育130%、法109%、経済87%。成績上位者が減。ただし、関東からの志望者は減っていない。工の電気情報理工人気。成績上位者前年比180%と激戦。とにかくセンターで得点を取る。工学部志望者はセンターの得点を見て、学部内併願多い。理学部は前年比91%だが、下位層が減っただけで難しさは変わらない。2次の理科二つ7割揃えたい。農学部前年比89%ねらい目。
 - 北大文系ねらい目。ここ数年、2次逆転ラインが上昇。センター得点70%は確実に上回っておきたい。総合文系は、センター得点率75%付近欲しい。総合理系は物理重点126%。化学重点84%。前期はセンター70%を越えると合格が見えた（2018年度入試）。
 - 筑波大前期英語の問題➡文章を読んで概要を理解する必要があり、まだそれに関する自分自身の意見をまとめる。思考力、判断力、中でも「課題発見・構想力」が要求される。情報科学・情報メディア創成で志望者・上位者ともに増加。ボーダーラインアップ。
 - 首都圏私大文系の難化を受けて、現役生も浪人生も「早慶上理」から「GMARCH」へ、「GMARCH」から「成成明國武（成蹊・成城・明治学院・國學院・武蔵）」へという弱気な姿勢が垣間見える。私大希望者は、第一志望校へは強気な出願を！
 - 「早慶上理」、「MARCH」では、ボーダー以下の成績層で志望者減。チャレンジを！
 - 慶應。全体の志望者は減少しているが、ボーダー中盤から上位に変動はない。小論文の対策をして上位層は積極的なチャレンジを！
 - 早稲田大。ボーダーより上の層増。ボーダーより下の層減。激戦。英国社、英数理揃える必要あり。
 - 東京理科大。東大等の理系トップ層はセンター利用のA方式で受験する。B方式（一般方式）の定員は少なく厳しくなることが予想されるが、弱気にならないこと。河合偏差値55以上なら、今後の伸び次第で十分にチャンスあり。

- 立教大は私大専願者だけでなく、国立上位大の併願先としても人気で、ハイレベル入試継続。センター利用6科目方式ねらい目。国公立志望者はぜひチャレンジを！
- 明治大は、今春入試で入学定員を1030人増やすも、入学者は55人減少し充足率93.8%。だった。来春は極端な絞り込みはないだろう。チャンス！積極的にチャレンジを！ただし、上位層は堅調。チャレンジ層が回避しているのできちんと準備をして望みたい。
- 中央大は一般、センターともに人気継続。国際経営学部(多摩)、国際情報学部(市ヶ谷田町)新設。国際情報は早稲田文講、社学からの併願もあり。
- 成成明國武では明治学院志望者前年比88%と減。その他は成蹊大101%・成城大104%・國學院大104%・武蔵大102%と人気堅調。「GMARCH」や「日東駒専」のような、マスコミ受けする派手さはないが、堅実な校風でおススメの大学群。
- 東駒専ではボーダー以上の成績層が増加。東洋対前年比101%・専修109%・駒沢106%。きちんと準備を！
- 私大入試は一般的に、「AO・推薦 → センター利用 → 一般(全学部→学部別)」の順で実施される。近年の定員超過抑制の施策強化にともなって、多く私大で合格者数の絞り込みが行われている。ただし、大多数の私大で、合格者数が大きく減っているのは「一般(esp.学部別)」に集中している点は要注意。センター利用方式では、従来の「おさえ校を確保する」だけでなく、「挑戦校も狙っていく」強気な姿勢が重要。

今日からはセンターモードで！22日・23日センター演習会です。

不動岡で最後の定期考査も今日で終了です。今日からは受験勉強に専念です。センター試験まで、あと一か月に迫ってきました。国公立or私立を問わず、二次試験のウエイトが高い大学を志望する人も、センター試験を甘く見てはいけません。難関大と呼ばれる大学は二次配点が高いところが多いです。東工大はセンター得点率64%あれば二次勝負です。しかし、得点率70%を切った合格者はごくわずかです。二次で高得点を取るにはそれぞれの科目の基礎・基盤ができていけるかが重要です。その基礎・基盤の完成度がセンターの成績に現れます。大学受験は「一次が万事」とも言われます。まずは最初の関門であるセンター試験で目標点をクリアすることに全力を傾けましょう。

さて、この時期に何をやるべきか？ 入試直前期は、今までに使ってきた参考書・問題集・ノートなどを使って、これまで勉強してきたことの総復習に重点を置くことが鉄則です。過去に受けた模試の見直しも効果絶大です。また、赤本等を使った過去問演習によって応用力とスピードをつけ、その中から自分の弱点を発見したらそこを重点的に補強するといった学習法も有効です。過去問を解くことで出題形式に慣れることもできます。いずれにしても、ここまで来たら徒に新しい参考書・問題集を開くのではなく、使い慣れた本の完全習得にこそ力を注ぎましょう！！

それから、志望大学のボーダー得点を調べ、自分の科目別の目標得点を明確に決めましょう。22日(土)、23日(日)に行われるセンター演習会は、本番の実施時間に沿って演習を行います。思いのほか長い休み時間をどうリラックスして過ごし、次の科目に向けて集中力を高めるかを実際に体験します。センター演習会では、受験をしながら科目別目標得点と自分の目算との差をチェックしながら、得点を積み上げてみましょう。言うまでもなく、センターで大切なのは総合得点です。科目別目標得点との差がプラスなら、より落ち着いて実力が発揮できることでしょう。しかし、マイナスになってしまった時、あわてずに残りの受験科目の中からどの科目で何点上乗せできるかを考えながら2日間を乗り切る練習にもなります。必要だからこの時期にセンター演習会をやるのです。本番のつもりで、目標点を設定し、緊張感をもって臨んでください。

今日からセンター試験までのスケジュールを考えてみましょう！ ↓